

研究主題

「技能の向上を目指して、自ら学び、
仲間と共に取り組む保健体育学習」
～学習環境や振り返りの充実を通して～

市原市立姉崎中学校			
全校生徒		317名	
学級数	12学級	教職員数	27名

1 仮説

- (1) 生徒の気づきを大切に、教師の発問や学習カードの工夫、ICT 機器を効果的に活用すれば、自ら課題を見つけ、解決しようとする力が育ち、技能の向上につながるだろう。
- (2) 生徒同士の話し合い活動を積極的に取り入れることで、仲間と共に学ぶ姿勢が育ち、豊かな発想力や表現力を高めることができるだろう。

2 取組内容

- (1) 仮説1 に対して
 - ①生徒の活動を通して、自ら課題を見つけさせるために、教師の発問を工夫し、仲間と共に解決することを大切にさせる。
 - ②学習カード・ICT 機器を活用し、情報の共有や課題解決のヒントとさせる。
 - ③上記の①②を相互活用し、技能の向上につなげる。
 - ④自ら課題を見つけ、解決しようとする力がどのように技能向上につながったのか調査する。
- (2) 仮説2 に対して
 - ①活動の前後に話し合い活動を設定する。
 - ②自然と話し合いの雰囲気や時間を確保できるように準備や片付けなど様々な活動をチーム単位で活動させる。
 - ③仲間の意見を受け入れること、全員の発言の機会を設けることを常時指導する。
 - ④話し合い活動によってどのような成長があったのか調査する。

3 工夫したこと

- ・学習カードを冊子にし、ドリル練習、技能のコツ、練習方法、作戦カードなど必要な内容を全てまとめたものを使用し、振り返りをしやすくした。
- ・授業前にアンケートで生徒の興味関心や実態を把握し、加えて授業用に編集した動画を視聴することで授業で身につける技術の完成イメージを持って、授業に取り組むことができた。

4 成果

- ・話し合い活動を通して自ら課題を発見・解決し、仲間と意欲的に取り組むことで技能向上に有効であった。
- ・学習カードの工夫で主体的に課題を見つけ、意欲的に課題に取り組むことで技能の向上につながった。
- ・ICT 機器を用いた導入授業を展開することによって完成のイメージを持ち、課題や目標に向かって授業に臨んだり、新たに課題を発見することに有効であった。

5 課題

- ・日常の学習や生活から主体的に動けるような環境作りが必要である。
- ・実技副読本等の資料を活用して課題を見つける時間の確保が必要である。
- ・自ら課題を発見し、解決する授業では主運動の時間を確保することが難しい面もあり、基礎基本は教師からの指導で高める必要がある。
- ・事前事後アンケートで生徒の変容がわかる内容項目にする必要がある。
- ・授業内で効率的な使い方を工夫するなど、ICT 機器の活用方法に改善の必要がある。

【場の工夫】

ソフトテニスではグラウンドにもコートを設置できるように、移動ネットを使って、仮設コート3面を加えることができた。常設コート3面と合わせて6面使用し、35人程度でも十分に試合ができた。

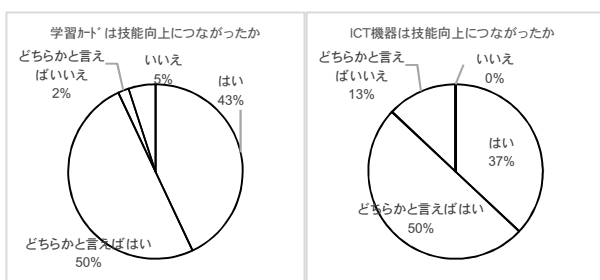
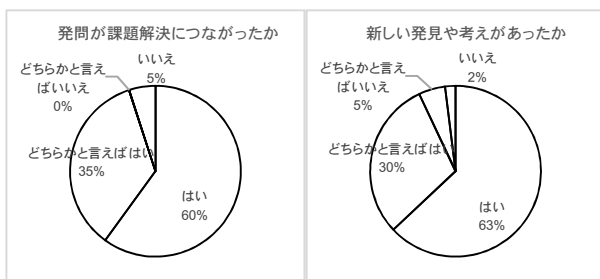
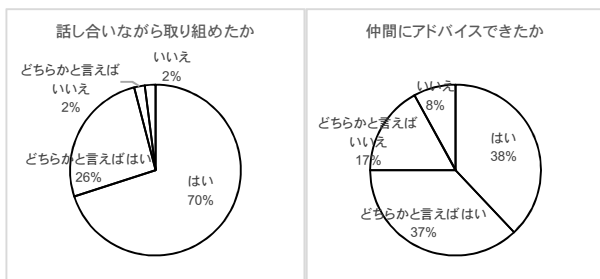
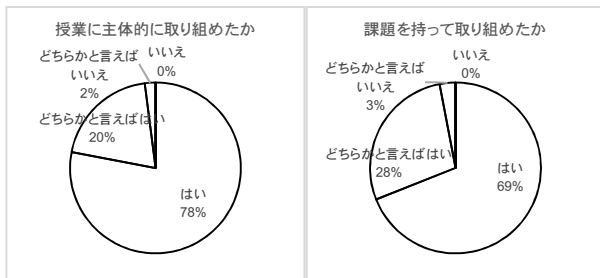


【ICT 機器の活用】

生徒1人に1台配られたタブレットを活用し、プレー後に素早く自分の動きを振り返られるように遅延カメラ機能を用いて確認させた。練習中でも試合中でもすぐに自分のプレーが確認できるため、改善点を発見しやすく仲間と話し合う場面も多くあった。



【アンケート結果】



【学習カード】

学習カードを用いて、技能のポイントを書き込んだり、チームの作戦を立てたりした。学習カードは1授業1ページとなっており、その授業での内容、主発問、課題などが一目でわかりやすいように工夫した。



① ショートラリーでテニスの楽しさを体験しよう

発問: ストロークがしなやかにインパクトする様子をしよう

自分が一振打ちやすいタイミングは()番!

タイミング、リズムを見つければOK

ショットラリー最高回数に挑戦! 最高回数は

② スペースラリーで自分好みのバックを見つけよう

発問: 自分が打ちやすいバックハンドはどんな打ち方だろうか?

打ちやすい方法を見つけよう

バックのみラリー最高回数に挑戦! 最高回数は